

現在は、雇用の危機だと言われています。高止まりした失業率、雇用形態における格差問題など、若者に限らず多くの人の雇用状況はますます厳しいものになっています。

そのいっぽうで職場に馴染めず辞めていく若者も後を絶ちません。

この状況を社会や会社の問題にしてしまうのは自由ですが、それでは何も変わりません。自分以外のものに原因を求めて、状況を変えられるのは社会を動かせる人、会社を変えられるほどの力を持った人だけです。

世の中、そんな人は多くないでしょうし、そもそもそんな人ならば、この本などは手にとってはいないでしょう。実際には会社や組織といった既存の仕組みのなかで、いかに生き残っていくかを考えなければならぬ人がほとんどのはずです。

この本は、そのような人たち、会社や組織で生きていく方法を知りたい人すべてのために書いたものです。前著『非正規社員を競争力に変える法』は企業の担当者向けに書いたものですが、今回は、職場で働くひとりひとりのために私の考えを述べました。

私はいわゆる派遣社員という労働力を、企業のニーズとマッチングさせる人材派遣会社の経営者をしています。仕事を通じて、企業の担当者から教わったことですが、彼らの雇

用にかかるコストは驚くほどの額になっています。ですから、雇用が決まったら、とにかく長く勤めてもらうことを企業も望んでいるのです。

これは取引先の企業ばかりでなく、私自身の会社にも共通するものです。なぜなら雇用を得るために、私たちが支払う営業コストもまた大きなものになっているからです。そこで私は、派遣社員の若者が安心して長く勤められるよう、いろいろな取り組みをしてきました。その結果として、長野という地でビジネスを成功させることができている。そして、私の知るノウハウを書籍の形で示すことが、若者の職場での困難を解消する役に立つと考えました。

本書では「どうすれば就職できるか」、「どんな会社に就職したらいいか」よりも、すでにいる職場での評価を勝ちとることをメインテーマにしています。もちろん、結果的に就職の役に立ったり、良い会社を見分ける力がついたりすることはあるかもしれませんが、基本的にはあなたが得ている職場でどう生き抜くかという方法論について書きました。

仕事に関する本は、世の中にあまたあることと思います。そのなかには、有名なビジネス・コンサルタントや、大企業の社長が書いたものがいくらかでもあるでしょう。

彼らと違って私にはそれほどの知名度はありません。しかし、その代わり読者であるあなたたちのことをよく知っていると感じています。

彼らは雇用現場のことはわからないでしょうが、私は労働者の派遣を通じて、若者たちとともに汗をかいてきたつもりです。だからこそ、この本はより身近な「実践書」として読み進めることができるはずですよ。

大きく変わり続ける社会のなか、雇用の問題は今後も私たちを翻弄し続けるでしょう。労働人口の大幅な減少や内定率の低下などは、まさに右肩下がりまま上向く気配はありませんし、グローバル化の進行も後戻りすることはなく、産業構造をますます大きく変化させ複雑なものにしていくでしょう。

いまや、学歴や資格など、これまでの雇用において基準となっていた価値観は大きく変わってしまっています。社会が大きく変化し何の基準もない現在だからこそ、この本で述べる「職場で生き抜く力」を身につけることが大切なのです。それがすなわちこの本のタイトルにある「愛される」ということなのです。私の知る限り、いつの時代も仕事の現場で多くの人々が感じているのは、次の一言に集約されます。

「職場で愛され、長く働きたい」

本書は、そのためのノウハウをまとめたものです。社員、派遣社員を問わず、すでに勤めている人、これから就職活動を始める人、職を求めるあらゆる人に、長く、気持ちよく働けるためのヒントを提供できれば幸いです。